

ドル／円(4/30) レンジ下に抜ける、113円割れば中期下落トレンドの可能性



コメント

先週の値動き＝月曜日、いきなり先週終値よりも1円以上も窓を開けスタート。その後もドルは売られる展開で、113.81円で引けている。

今週の指標＝最大の注目は、5月5日の米雇用統計。米財務省の為替報告報告書も重要か。日本ではGWと大型連休となる。欧州関連は、ECB、BOEで政策金利が決定する。その他経済指標は、今後ブログにて公開。

テクニカル＝ボリンジャー -2σ 近辺。その下には年初来安値、さらにサポートラインがある。ここを下抜けてくれば、中期的なドル安トレンドになる可能性も。110円割れの可能性も出てくるだろう。

テクニカル・レート

ボリンジャー $+2\sigma$ = 120.99円
 26週移動平均線 = 117.41円
 ボリンジャー -2σ = 113.83円

先週始値 = 115.65円
 先週高値 = 115.96円
 先週安値 = 113.66円
 先週終値 = 113.81円

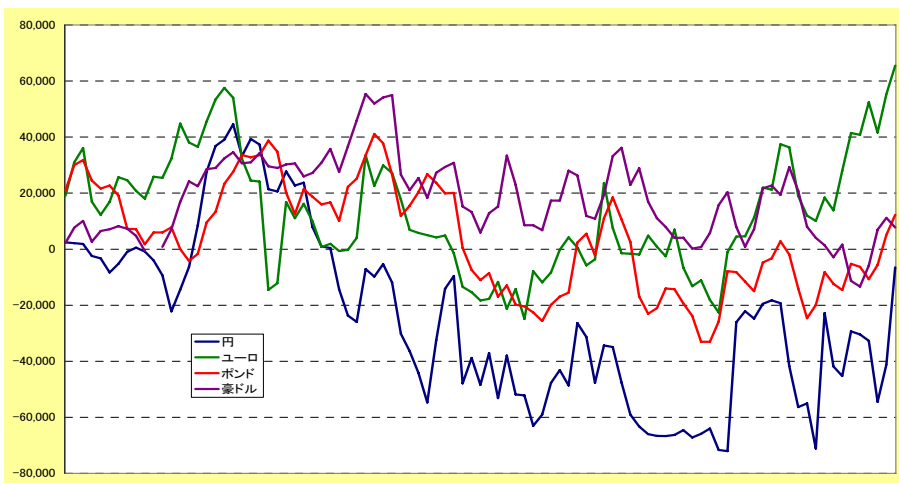
今週の投資例

今後は、ブログでログイン後、非公開記事として公開していきます。

<http://www.sportswalker.net/>

ID=「user」 password=「user」

円ポジション2005年2月以来のプラス転化か、金利は据え置き見通し

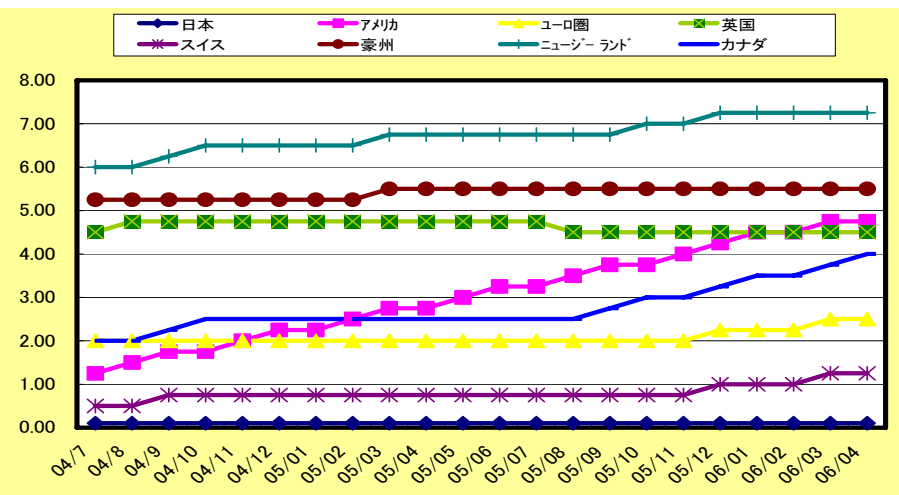


IMM投機筋ポジション動向

4月25日までの状況では、シカゴIMM投資筋の円の売り持ちは約▲0.6万枚。先週から約▲3.4万枚と大幅に円の売り越しが縮小した。25日のドル円相場は114.88円。直近4月28日は113.81円。

円売りが▲1万枚以下になったのは、2005年5月以来。仮に28日現在プラスになっていれば2005年2月以来となる。当時は100円割れの見通しが一般的であった時代。

ユーロドルの買い持ちが高水準であるものの、円についてはまだ買い余力は十分。



各国金利動向

先週は、バーナンキFRB議長が利上げの一時休止に言及したとの報道からドル売りに。一方、日銀では、年内の利上げも示唆されている。

今週は3日に豪州RBA、4日に欧州ECB、英BOEが政策金利を発表。いずれも据え置きか。ただ、ECBはギリシャ中央銀行のガルガナス総裁が27日「ユーロ圏の金融政策は緩和的で、金利は依然として非常に低い水準にある」との認識を示しており、6月にも利上げがありそうだ。また、BOEについては、利下げ観測が後退している。(ロイター)